

健考館 15周年特別企画

終戦70年

広島の被爆ピアノが 健考館にきます

2015年

9月22日(火)

この「ピアノ」は、当時、広島市内の千田町に住んでいた、ある少女の家で使われていたものです。爆心地からの距離は約1.8Km。この家も爆風で壊れ、焼け落ちてもおかしくない位置にあったといえますが、当時にはめずらしいコンクリートの頑丈なつくりだったことや、家の向きなどが幸いしたのか、屋根が飛び、天井が落ちるなどの被害はあったものの、なぎ倒されることはまぬがれたのでした。ピアノも爆風で壁にたたきつけられ、傷だらけになりましたが、家がなんとかもちこたえたおかげで、こうして今に残ったのです。

絵本『ヒロシマのピアノ』（指田和子・文 坪谷令子・絵 文研出版刊）より引用

同時開催 あどRun太 命のコンサート

18:00開演(17:30開場)

会場：オーロラ館(健考館となり)

定員100名

チケット2,000円(小学生1,000円)

お問い合わせ・お申し込み

健康増進施設 健考館 0198-46-1212

〒028-3182 岩手県花巻市石鳥谷町松林寺3-81-13



同日に広島市の被爆ピアノが健考館に来ます。
被爆ピアノによる企画も予定しております。この機会にぜひ見て、
語って下さい。尚、事前のお申し込みが必要となりますので、チケット
を希望される場合は健考館までお願いいたします。
コンサートは定員100名を予定しており、定員になり次第締め切り
とさせていただきます。
健考館は宿泊・入浴もご利用いただけます。お越しの際はぜひ合わせて
ご利用くださいませ。皆様のお越しをお待ちしております。
健考館 TEL 0198-46-1212 ホームページ www.kenkounoyakata.com

あとRun太プロフィール



1948年生まれ。サラリーマン時代に同僚の死がきっかけとなり「自分に正直に行きたい」と音楽の道に転身。以後“人のために役立つ音楽”をモットーに音楽活動を展開。シンガーソングライターとして400曲以上ものCMソングやイメージソングを手掛け、ラジオやテレビ新聞への出演もこなす。

1998年、少年問題をテーマにした「少年よ夢を持て！」を契機に、小中高等学校を巡演。音楽活動が軌道に乗り始めたころ、三男が集団リンチにあい、家族の心の別離を知り強烈なショックを受ける。その苦しみも癒え、2000年には日本作曲家協会主催の第2回新しい日本の歌コンテスト自由曲部門で「笑おうよ！」がグランプリを受賞。作曲家・三木たかしより小田真のペンネームを贈られる。

02年沖縄音階による「夢なんて」の作曲が喜納昌吉氏との出会いを生み、平和と追悼の音楽祭“ヒロシマ祭り”が実現。

この間、01年悪性リンパ腫で緊急入院するが奇跡的に立ち直り、闘病生活中も音楽活動を続け、入院患者と心の交流を図る。

退院後も各地の病院、学校各種施設などを巡演し、生きることの大切さ、人と人との深い繋がりあいを実感する。03年『ひろしまフラワーフェスティバル』にて宇崎竜童とジョイント。

04年『ビートたけしの奇跡体験！アンビリバボー』に出演し大反響を呼ぶ。同年テレビ大阪『ボランティア21』の30分全国特番に出演。その後「だから私は町に出る」がエンディングテーマとなる。

著書に闘病の様子を描いた「笑おうよ！」がある。「病気をして、人の痛みや優しさがわかった。人のおかげで生きていられるんだと実感できた。愛を発信したいと心から思っている。」と語りかける。

その後、ガン患者やその家族を無料で招待し『命のライブ』を全国的に展開し続け、年間100ヶ所以上のコンサート活動を続けている。広島市安佐北区にライブハウス「らん太ハウス」を経営。